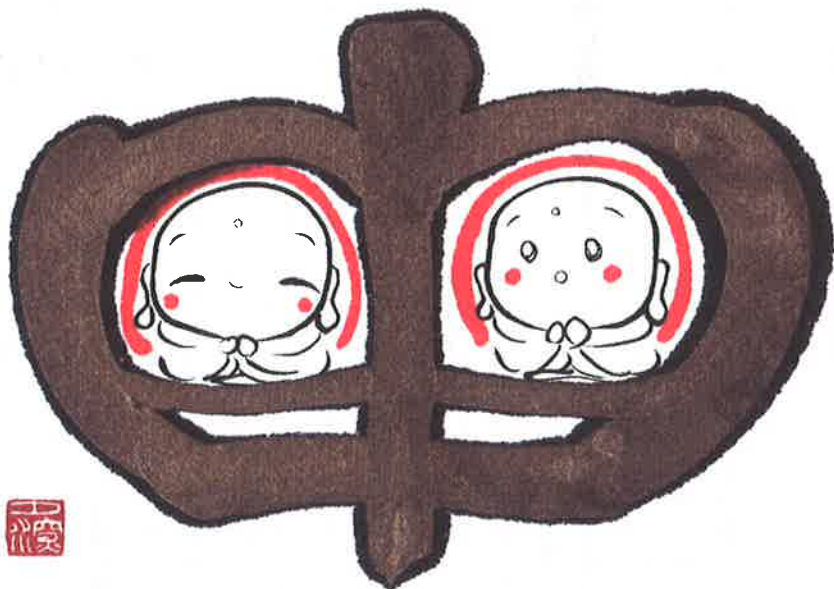


やすらぎの じぞうもじをあなたに

あけましておめでとございませす

とろこ六年

ひばり、一年で
ありませように



NO. 9
2016年1月1日発行
発行者 夕深
981-1107
仙台市太白区
袋原郵便局留
問い合わせ先
090-6221-6611

新年おめでとございませす。今年の干支は申年です。干支については、多くの謎があり、十二支に使われている文字のほとんどは動物とまったく関係のない字ですが、干支は農業との関わりが強く農作物を育てる際の季節や天候を目安として、十二支を暦として利用していたそうです。十二支は農作物の生長の過程を十二段階で表していた意味を持ち農業用語だったようです。「申」は干支の九番目になります。その意味は「伸びます」で「草木が十分に伸びきった時期で、実が成熟して香と味がそなわり固く穀におおわれていく時期」を表します。「申」という漢字は、「雷」の原字で、元々「稲妻（いなづま）」を表した象形文字です。稲妻は屈折しながら、あちこちの方向に走ることから

「申」を「のびる」という意味や「もうす」という意味で使うようになりました。雷は昔、神が鳴らすものとされ「神鳴り」とも書かれ、かみなりの語源であり「申」の字に示偏（しめすへん）をつけると「神（神）」になります。その意味からも「申年」とは、良く伸び、成熟していく年であり、何事も真摯に受け止めていく年なのかもしれません。

あるがまま

私事ですが、若いときに自分の下がり眉毛が嫌いで、半分剃り眉毛をキリッとあげて描いていました。おしゃれを気にする若い頃は、それがとてもいいと思っていました。今はそんなことを気にすることもなくなりました。逆に全てのあるがままの自分を受け入れられるようになりました。じぞうもじを見て、「このお地藏様の顔と似てますね？」とよく言われることがあります。似ていると言えば、きつ

とこの下がっている眉毛のせいかもしれない、と今思うのですが、「あるがまま」を受け入れて行く姿勢はきつと意味があり、人生の鍵の一つになるように思います。

人生の鏡（やすり）

角張ったものを丸く、ゴツゴツした表面をなめらかにするには、叩いて角を取り目の粗い鏡（やすり）で擦り、だんだんに目の細かい鏡で表面を磨き光らせる事ができます。ゴツゴツした表面を最初から目の細かい鏡で磨いてみても、光るまでいったいどのくらい時間がかかるのかわかりません。人生もそれに似ています。叩かれたり目の粗い鏡で擦られれば心も身体も悲鳴をあげるほど痛いでしょう。それを避けたいと思うのがきつと人間の本能です。でも、痛くない目の細かな鏡ですつと永遠にやさしく擦られても角は取れず光もせず何にも気づかず成長も出ないまま終わってしまう

かもしれません。どちらが
良いのでしょうか。人それぞ
れ人生の鱧を持っていて思
うのです。目が粗いほど
辛く苦難の日々を過ごす日
もあるでしょう。目が粗い
と言うことは、角が取れ、
表面のゴツゴツがなくなれ
ば・・・鱧の目がだんだん
に細かく切り替わっていく
きっかけになります。今、
人生の鱧の目は、何番なの
でしょう。

じぞうもじカレンダー

毎年、じぞうもじカレンダー
で多くの新たなご縁が生ま

れ、嬉しく思います。新た
なご縁でいつもありがたく
思うことがあります。

それは、仙台から遠く離れ
た地より、じぞうもじカレ
ンダーのお問い合わせを受
けてご注文をいただくとき
に、どこでじぞうもじカレ
ンダーをお知りになったの
かを尋ねると、ほとんどの
方から「昨年、友人（また
は知人に）にいただいて・・・」
という言葉が返ってきます。

そして、その言葉の後には、
いただいた方が、当時とて
も心がふさぎ込んでいたと
きにこのカレンダーをいた
だき、一年間心が安らいで

過ごすことができました、
と教えてくださり、私も本
当に嬉しい気持ちになりま
す。ご友人、お知り合いの
方の心を想い、このカレン
ダーを贈ってくださった方
のお優しい心に触れ、私も
心が温まります。人の温か
な心が人の心を温める、そ
んな心が世の中を包んでい
けるようになれば、そんな
な思いでこれからもじぞう
もじを書き続けたいと思っ
ます。心が伝わるように、
やさしい思いを寄せながら。

秋保木の家さんでの 手書き

手書き

仙台中心部から車で30分
の距離に位置する秋保木の
家さんで毎月最終日曜日に
手書きをしています。2
011年「石んことじぞう
もじ展」の開催をきっかけ
に、木の家さんのご厚意に
より継続して様々なポスト
カードを置いてくださり、
手書きをさせていただくよ
うになりました。「木の家
さんでじぞうもじを見まし

た」「知りました」という
声をこれまで数え切れない
ほどお聞きしました。現地
でご依頼をいただいたの手
書きは、文字に込めた思い
などを直接お話を伺いな
がら書いていきます。冬は雪
を見ながら、春は桜と新緑
に包まれて、夏は蝉しぐれ
の中、秋は紅葉とともに、
目の前に四季折々を感じ筆
を持つことができるなんて、
何より贅沢なひとときでは
ないかと思うこの頃です。
また、最終日曜日を待ちわ
びて、遠方からわざわざ来
てくださる方々へ感謝申し
上げます。今年も秋保木の
家さんでお待ちしております。

（宮城県仙台市青葉区八幡
四丁目8番32号）
□バスでお越しの場合
大崎八番宮前下車徒歩5分
龍寶寺入り口下車徒歩5分
□駐車場あります。

今年のじぞうもじ展

今年も龍寶寺様のご厚意に
よりじぞうもじ展を開催す
ることとなりました。

年に一度の多くの作品を展
示する「じぞうもじ展」で
す。どうぞ、じぞうもじを
観ながらのひととき、心を
ゆつくり休めてください。
じぞうもじ展でも、もちろ
ん手書きいたします。

□2016年5月3～5日
午前10時～午後5時
（最終日は三時半まで）
ところ・龍寶寺（りゅうほうじ）

客殿にて
やすらぎのじぞうもじ新聞は、
これまでじぞうもじを「依頼
いただいた方やカレンダーを購
入いただいた方へ発送してい
ます。何かありましたら気軽にお
問い合わせください。



やさしさが強くなってよくなる

